

□ ■ □ 「寺田縄防災会」活動報告 □ ■ □

① 街頭消火器の調査・新設： 班長さんとプロモート会員が実施した街頭消火器の設置調査により、住宅が密であっても、消火器がなかった所が3か所ありました。消防本部へ新設の要望をだした結果、3班、15班、16班に新たな街頭消火器が設置されました。
班長さん、プロモート会員の共同作業の結果です。ご苦労さまでした。

② ドローンのテスト飛行： 最近さまざまな場面で使用されているドローンを、寺田縄地域の防災活動への導入を検討するために、テスト飛行を見せてもらいました。 検討して行きます。

③ 「寺田縄ホットライン」の検討： 風水害が予想されるとき、住民の安全・安心を守るべく平塚市から様々な発令が出されます。自治会の会長に最初に伝えられた「避難準備・高齢者等避難開始」の発令を、自治会員へ伝える緊急連絡網のルート、ホットラインを検討しています。

かつて鈴川が危険な状況になり、「避難勧告」が発せられました。当時の自治会役員さん達は、住民にとって非常事態と判断し、会員に状況を伝えるために、電話作戦をとり伝達に奔走しました。しかし、会員全員には行き届きませんでした。

伝達が行き渡るためには、自治会役員、プロモート会員のみでは800戸を超える会員に伝達することは不可能です。当然、時を争う事態を前提にしなければなりません。より早く、確実に伝達する為には、寺田縄自治会員皆様の協力が必要です。伝達のルートを作るには、とりわけ、班長さん、組長さん、副組長さんの助力が無ければ、伝達は完結しません。

来季、平成31年度に「寺田縄ホットライン」の提案をいたします。ご協力ください。

冬の火災を防ごう

寒い季節を迎え、暖房器具を使うことが多くなります。消防庁、30年8月9日発表（平成29年の統計）によると、『前年と比較すると総出火件数、火災による死者数ともに増加している』と注意を呼びかけています。

建物が火災になる原因として、第一位は「コンロ」（14.0%）、次いで、「たばこ」（9.5%）、 「放火」（7.7%）、 「ストーブ」（6.2%）、 「配線器具」（4.8%）、 「電灯・電話等の配線」（4.7%）、 「電気機器」（4.5%）・・・と挙げられています。

火災から身を守るためには、燃え上がる前、炎が小さいうちに火を消すこと「初期消火」が大切です。「火災発生・火事だ」と、大声を上げること、消防署へ通報すること、『炎が天井に届くなど、身の危険を感じたら、消火活動をやめて避難しましょう』（東京防災）

ご家庭には消火器を備えていますか？ 万一の場合を想定し、消火する構えをイメージし、お互いに、出火元にならないような最大の注意をしましょう！！